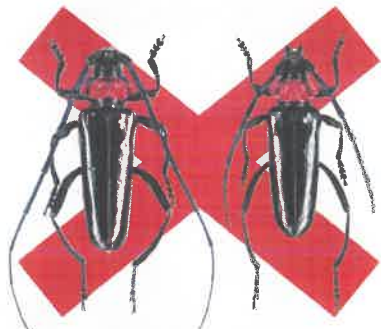


ご用心!
クビアカツヤカミキリはすぐそこに

WANTED



REWARD

BEAUTIFUL SPRING, YUMMY SUMMER

外来種クビアカツヤカミキリが、日本のあちこちで、春を彩るサクラ、モモ、ウメを食い荒らしています。どうしたらこの虫から身近な木を守っていただけるでしょうか。知ることは最大の守りです。このリーフレットでどんな虫なのか、見つけるにはどうしたらいいのか、見つけたらどうしたらいいのかを説明いたします。



クビアカツヤカミキリコンソーシアム
代表機関 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所

〒305-8687 茨城県つくば市の里1番地 E-MAIL: saukurakamikiri@ml.affrc.go.jp

クビアカツヤ
カミキリが
食べる木

クビアカツヤカミキリはバラ科の樹木を食い荒らします。バラ科のうち日本国内で本種による被害が見つかったのは、モモ(ハナモモ含む)、ブルーネ、ウメ、スモモ、アンズ、サクラ(ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ)といった、サクラより近い仲間の樹木です。これらの樹木の中で、国内においてクビアカツヤカミキリによる被害本数が一番多いのはソメイヨシノですが、この虫が一番食い荒らしやすいはモモ類(モモ、ハナモモ)のようです。



モモ

クビアカツヤ
カミキリって
どんな虫?

もともとは日本にいなかったカミキリムシで、2011年に、はじめて日本への侵入が埼玉県で確認されました。成虫はつやのある黒い体に胸だけあざやかな赤色の姿でとても目立ち、木にいるこの虫を初めて見た人はぎょっとすることでしょう。成虫は6~7月に木から出てきて活動します。この虫の幼虫は、サクラ、モモ、ウメなどのバラ科樹木の幹の中を食い荒らし、放っておくとついには木を枯らしてしまいます。2021年の時点で、群馬県、栃木県、埼玉県、茨城県、東京都、神奈川県、愛知県、三重県、大阪府、奈良県、和歌山県、徳島県の12都府県でこの虫による被害が見つかっています。

探して!
クビアカツヤ
カミキリ

外来種対策は早く見つけて早く駆除することが一番です。不幸中の幸いに、クビアカツヤカミキリは自分の居場所を人に教えてくれます。その手がかりは「フラス」と呼ばれる虫のフンと木くずが混ざったものです。このカミキリムシの幼虫は、木の幹に排糞孔という穴をあけて、そこにフラスを木の中から押し出すのです。幼虫は5月から9月に盛んにフラスを木の外へ出すので、その時期にフラスが出ている木を探してみてください。サクラやモモなどの幹にある数ミリの円形の穴からフラスが出ていたら、中にクビアカツヤカミキリがいることを疑います。ただ、日本にもとからいる虫でもフラスを出すものがあります。クビアカツヤカミキリのもよりも黒っぽくコロコロとしたフンが目立つコスカシバ、ささくれた木くずをふくむ在来のゴマダラカミキリ、また、樹上で暮らすアリも蟻道という木くずの道を作ります。

フラスが地際に大量に積もっていたら、間違いなくクビアカツヤカミキリがいます。その木が被害にあっ

これが
クビアカツヤ
カミキリだ

成虫



幼虫



木の皮の内側を猛烈な勢いで食い進む
十分に大きくなると木の材の部分に入る



クビアカツヤカミキリ：穴から連なって出てくる/明るいオレンジ色/木くずはまるみがある/夏から秋には大量のフラスが地際に溜まることもある



コスカシバ：コロコロしたフンが目立つ/少量のフラスを、木のこぶなどの部分から出す/色はクビアカツヤカミキリよりも黒い
ゴマダラカミキリ：色はクビアカツヤカミキリに似るが、木くずがささくれている



蟻道：通り道を守るように筋状に広がる/樹皮上にへばりついている/中によくアリが歩いている
クビアカツヤカミキリの脱出孔

ていることに気づいたのはあなたがはじめてのようだったら(防除実施中の掲示とか、網を掛けて飛散防止措置がされていなかったら)、自治体の環境を扱う部署または緑地、農地を扱う部署に連絡してください。自治体の他、環境省地方環境事務所でも報告や相談を受け付けています。